

小学生の頃に家にあったマンガの続編を友人から借りる事が出来ました。これは「SWAN〜白鳥」というバレエマンガの主人公達の娘、まいあが主人公になります。14歳のまいあが念願のオペラ座バレエ学校に編入します。初めての場所、初めてのレッスン。指導されるたびにビクビクして思うように踊ることが出来ないでいた彼女ですが、自分の意識が変わることで目に映るもの、聞こえてくるものすべてが違うように感じられる事が分かってきました。最初は「好きだから」「両親の踊る姿を見て自分も踊りたいと思った」という理由でバレエを続けていた彼女はバレエだけでなくクラスメイト、プロのダンサー達そして離れた場所から改めて見る舞踏家としての両親を通じてどんどん成長してゆくのです。バレエの技術面だけでなく精神的にもどんどん強く一歩前に広がるようにして彼女の進むべき方向を明確にしてゆきます。今まで言葉に出さなかったことを伝えることで色々なことを自分の糧として行くまいあの姿を見ていて共感することもありましたがそれ以上に「オペラ座のエトワール（最高の階級のバレリーナ）が優雅なのは日常生活でも上半身までの引き上げがキレイに出来ているから」という言葉にギクツとしました。自分の今の姿勢の悪さをマンガに指摘されたと思ったからです。思わず姿勢を正して読んでいました。子供の頃に読んだ前作をもう一度読み返したいと思いました。

F・N・



Copyright © 2015 Heiwa Shoten, Publishers, Tokyo. All Rights Reserved.

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞